

## CD [文章編] 1 - 02. 「一文一義」で書く

## 導入

ゼミで博士課程に所属する先輩たちの論文要旨を集めて要旨集を編集することになりました。編集委員の一人に選ばれたあなたは、編集委員を代表して最後のページに「あとがき」を書くことになりました。ところが、自分の書いた「あとがき」にどうも納得がいきません。どこかがおかしいと思われるのです。この「あとがき」はどこがおかしいのでしょうか。

## あとがき

この論文要旨集は、日ごろゆっくり話を聞かせてもらいたいと思いながらなかなか会うことができない先輩たちの研究を少しでもお伝えし、参考にしていただければと、編集委員一同、先輩たちの論文要旨を集め、心をこめて作成しました。

あとがきの第一文を見てみましょう。この文の主語は何でしょうか。「論文要旨集は」でしょうか。違いますね。一見そのように見えますが、この文の主語は「編集委員一同」です。では述語はどれでしょう。「作成しました。」ですね。この文の主旨は「編集委員一同、作成しました。」というわけです。しかし、文が「この論文要旨集は」と始められているので、「この論文要旨集は…作成しました。」という、主語と述語が合わない文になってしまったのです。このような、主語と述語が合わない文のことを「ねじれた文」と呼びます。

なぜこの文は「ねじれた文」になってしまったのでしょうか。それは、一つの文に言いたいことを詰めすぎたからでしょう。第一文目には四つの事柄が詰められています。

- ①編集委員一同が心をこめて要旨集を作成したこと。
- ②先輩たちの研究を知ってもらうために要旨集を作成したこと。
- ③先輩たちの論文の要旨を集めたこと。
- ④その先輩たちというのは、日ごろゆっくり話を聞かせてもらいたいと思いながら会うことができない先輩たちだということ。

これら四つの事柄を一つずつ独立した文で書けば混乱は避けられたはずですが。

## ■ 練習問題

巻には「一文多義」の文がたくさん見られます。「ねじれた文」もよく目にします。巻で見られた次の文章を「一文一義」に書き直しましょう。

- ① ルイボスティーは、現地では「赤いやぶ」と言われ、学名を「アスパラサス・リネアリス」と言い、地下 8~10 メートル深く根をはり、地中のミネラルをたっぷり吸収した生命力あふれる希少な植物です。（商品ちらし）
- ② 本来、月はじめに集める部費ですが、明日は、試験も終わることですし、ご連絡が遅くなってしまい申し訳ありませんが、今月の部費を集めさせていただきます。（電子メール）
- ③ 東京本社では営業にノルマと業績に応じた報酬を提供しているが、業績評価が営業の意欲を高めているのかどうかを考えてみたい。（社内報）
- ④ さらに、1977年に木星と土星の探査機としてボイジャーが米航空宇宙局から打ち上げられた時にも、未知の宇宙文明と遭遇する場合に備えて地球からのいろいろな情報とともに、一時間半にわたって多くの音楽がLP化されて搭載されたが、その中心に選ばれたのもバッハの《ブランデンブルク協奏曲第二番》第一楽章であった。（新聞記事）
- ⑤ 近年、「国際交流」の教育が重視され、各学校のそれぞれの教室で実践が広がりを見せ始めているとき、本書の研究内容が、学習指導の場に少しでも浸透して、一層普及に役立つことができるという思いが、刊行のきっかけであった。（本「監修のことば」）
- ⑥ わが社といたしましては、社の成果として出版する予定ですので、研究部出版委員会での審議とあわせてご協力いただいた社内外の委員に再度お目通しをいただき、加筆訂正等の箇所があれば、10月5日（金）までに庶務課広報係までお知らせいただければ幸いです。（社内文書）

#### ■ 練習問題の解答例

- ① ルイボスは、地下 8~10 メートル深く根をはり、地中のミネラルをたっぷり吸収します（特徴）。このように生命力あふれる植物は希少です（価値）。現地では「赤いやぶ」と言われています（俗名）。学名は「アスパラサス・リネアリス」と言います（学名）。

\*この文章は「ルイボスティー」の説明ではなく「ルイボス」の説明なので「ティエー」は外しました。

- ①の別解 ルイボスの学名は「アスパラサス・リネアリス」ですが、現地では「赤いやぶ」と言われています（名前）。ルイボスは生命力あふれる植物で、地下 8~10 メートル深く根をはり、地中のミネラルをたっぷり吸収しています（特徴）。希少な植物です（価値）。

- ② 試験が終わりました（前置き）。そこで今月の部費を明日、集めさせていただきます（主旨）。ご連絡が遅くなってしまい申し訳ありませんでした（追伸）。
- ③ 東京本社の業績評価は営業の意欲を高めているのだろうか（主旨）。この疑問について考えたい（論考の目的）。東京本社では営業にノルマを課している。そして業績に応じた報酬を提供している。その際の業績評価が問題である。（主旨の背景）
- ④ ボイジャーにもバッハの《ブランデンブルク協奏曲第二番》第一楽章が搭載されていた（主旨）。ボイジャーは 1977 年に米航空宇宙局から打ち上げられた木星と土星の探査機である（主体の詳細）。ボイジャーには、未知の宇宙文明と遭遇する場合に備えて地球からのいろいろな情報が搭載された（述部の背景）。多くの音楽が一時間半にわたって LP 化されて搭載された（述部の背景の詳細）。バッハの《ブランデンブルク協奏曲第二番》第一楽章は LP の中心に選ばれたのである（述部の詳細）。
- ⑤ 刊行のきっかけは次のようなものであった（主旨の予告）。近年、「国際交流」の教育が重視されている（背景）。各学校のそれぞれの教室で実践が広がりを見せ始めている（背景の詳細）。そのような時に、本書の研究内容が学習指導の場に少しでも浸透したら嬉しいと思う（主旨）。本書が「国際交流」の普及に一層役立つことができればと思う（主旨）。
- ⑥ 再度お目通しいただき、加筆訂正等の箇所があればお知らせ下さい（主旨）。10 月 5 日（金）までに庶務課広報係までお知らせいただければ幸いです（詳細）。この原稿は研究部出版委員会にご協力いただいた社内外の委員に送っています（背景）。社の成果として出版する予定です（背景）。

#### 問題

野矢が挙げている 7 種類の接続関係には、以下のものがあります。それぞれどのような接続表現があるでしょうか。挙げましょう。

- ①付加…そして、また、しかも、むしろ
- ②理由…なぜなら、というのは
- ③例示…例えば、
- ④転換…しかし、けれども、だが
- ⑤解説…すなわち、つまり
- ⑥帰結…だから、それゆえ、したがって
- ⑦補足…ただし、なお